

2020年3月期 第2四半期

決算説明会

I. 2020年3月期 第2四半期 決算概要

II. 新しい価値を生み出す強み

2019年11月26日



I. 2020年3月期 第2四半期
決算概要

〔2019年11月13日公表〕

事業環境と業績のポイント

事業環境

- ・建設業界全体における受注状況は、土木、建築とも前期比で減少
- ・引き続き、資材、労務コストの変動には注視が必要

業績のポイント

- ・豊富な手持工事の進捗により売上高は前期比で増加
- ・増収効果により前期並みの利益を確保
- ・海外は大型工事の受注がなく低調、下期に期待
- ・自己資本比率は26.9%に向上

3

1. 連結業績概要

○売上高は大幅増加。各利益項目は前期を僅かに下回るが、足許の業績は堅調に推移。

	2017/9期	2018/9期	2019/9期	
	実績	実績	実績	前期比増減
売上高	1,938	1,917	2,110	+193
売上総利益	232 12.0%	228 11.9%	228 10.8%	+0
営業利益	137 7.1%	125 6.5%	122 5.8%	△3
経常利益	134 6.9%	125 6.5%	120 5.7%	△5
当期純利益(※)	93 4.8%	88 4.6%	79 3.8%	△9

※親会社株主に帰属する当期純利益



4

2. 国内・海外別業績【連結】

◆売上高

2019/9期 売上高2,110億円



	国内	海外	(構成比)
'17/9期	1,654	284	(15%)
'18/9期	1,635	282	(15%)
'19/9期	1,837	273	(13%)

【国別売上高】

	'19/9期
インド	108
フィリピン	33
タイ	21
マレーシア	18
その他地域	93
海外合計	273

【国内総利益・利益率】



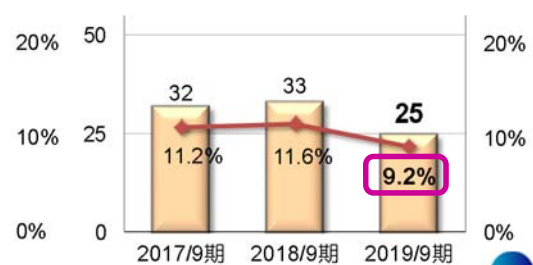
◆売上総利益

2019/9期 売上総利益228億円



	国内	海外	(構成比)
'17/9期	200	32	(14%)
'18/9期	195	33	(14%)
'19/9期	203	25	(11%)

【海外総利益・利益率】



5

3. 建設受注高《個別》

建設受注高

1,549億円

海外受注高（現地法人含む）

219億円

○土木／建築とも前年同期をやや下回るが、期首計画を上回り進捗

(単位：億円)



	2017/9期	2018/9期	2019/9期	
	実績	実績	実績	前期比増減
国内官公庁	278	349	189	△160
国内民間	94	96	275	179
海外	73	229	△4	△233
土木工事	445	674	460	△214
国内官公庁	34	102	62	△40
国内民間	864	1,165	1,020	△145
海外	30	24	7	△17
建築工事	928	1,291	1,089	△202
国内官公庁	312	451	251	△200
国内民間	958	1,261	1,295	34
海外	103	253	3	△250
合計	1,373	1,965	1,549	△416
海外(現地法人含む)	(278)	(436)	(219)	(△217)

6

4. 完成工事高 《個別》

完成工事高

1,650億円
(前期比+11.3%)

土木 572億円
建築 1,078億円



○工事の進捗により前期比+11.3%増
(土木+10.9%、建築+11.5%)

○繰越工事高は引き続き高水準

■ 完成工事高

(単位: 億円)

	2017/9期	2018/9期	2019/9期	
	実績	実績	実績	前期比 増減額 増減率
土木	547	516	572	+56 +10.9%
建築	925	967	1,078	+111 +11.5%
合計	1,472	1,483	1,650	+167 +11.3%

(参考) 繰越工事高の推移

	2018/9期末	2019/3期末	2019/9期末
土木	2,537	3,168	3,056
建築	3,177	4,217	4,227
合計	5,714	7,385	7,283

7

5. 完成工事総利益 《個別》

完成工事総利益

175億円
(前期比 △7億円)

土木 76億円
建築 99億円

完成工事総利益率

10.6%
(前期比 △1.7%)

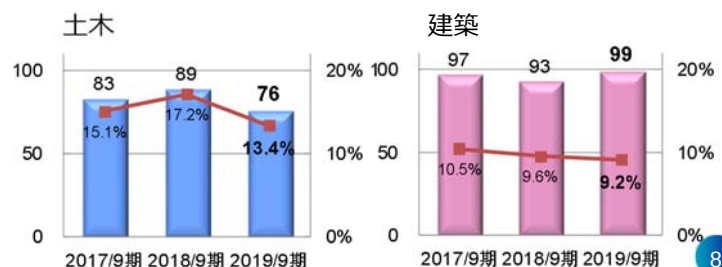
土木 13.4%
建築 9.2%

○完成工事総利益率は、前期をやや下回る

■ 完成工事総利益 (総利益率)

(単位: 億円)

	2017/9期	2018/9期	2019/9期	
	実績	実績	実績	前期比 増減
土木	83	89	76	△13
(率)	15.1%	17.2%	13.4%	△3.8%
建築	97	93	99	6
(率)	10.5%	9.6%	9.2%	△0.4%
合計	180	182	175	△7
(率)	12.2%	12.3%	10.6%	△1.7%



8

6. 財政状態・キャッシュフロー

連結自己資本比率

26.9%

(前期末比 +0.3%)

○利益剰余金の積上げにより
自己資本比率は26.9%に向上

■ 連結自己資本



■ 連結財政状態

(単位：億円)

	2018/9期末	2019/3期末	2019/9期末	
	実績	実績	実績	増減
資産合計	3,212	3,409	3,428	19
負債合計	2,341	2,429	2,430	1
(有利子負債)	(352)	(316)	(454)	(138)
純資産合計	871	980	998	18
(自己資本)	(803)	(906)	(922)	(16)
自己資本比率	25.0%	26.6%	26.9%	+0.3%

■ 連結キャッシュフロー

	2018/9期	2019/9期
	実績	実績
営業C F	△178	△289
投資C F	△29	△2
財務C F	65	83
期末現金同等物	570	456

9

7. 2020年3月期 業績予想

○通期業績計画に対し、概ね想定通りの進捗となっているため、
期首(2019年5月10日)公表の業績予想から変更なし

■ 連結業績予想

	2019/3期	2020/3期	
	実績	業績予想	増減
売上高	4,488	4,600	+112
売上総利益	510	500	△10
営業利益	292	265	△27
経常利益	289	250	△39
当期純利益(※)	188	160	△28

※親会社株主に帰属する当期純利益

■ 建設受注高 (個別)

(単位：億円)

	2019/3期	2020/3期	
	実績	受注予想	増減
土木	2,022	1,100	△922
建築	3,630	2,100	△1,530
合計	5,652	3,200	△2,452

■ 完成工事総利益率 (個別)

	2019/3期	2020/3期	
	実績	業績予想	増減
土木	14.8%	13.4%	△1.4%
建築	9.6%	9.6%	0.0%
合計	11.4%	10.9%	△0.5%

10

8. 株主還元

配当予想

24.0円

連結配当性向

23.7%

連結総還元性向※

29.9%

※自己株式の取得を含む

○2019年8月8日～9月13日
総額10億円の自己株式を
取得

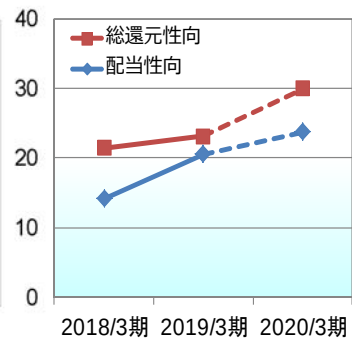
■配当実績・予想

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
年間配当金	18.0円	24.0円	24.0円
配当性向	14.1%	20.5%	23.7%
総還元性向	21.4%	23.1%	29.9%

配当金の推移



配当性向・総還元性向の推移



11

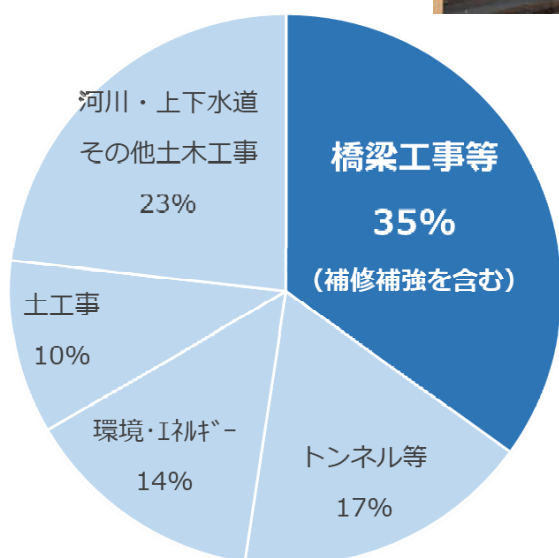
新しい価値を生み出す強み

－ 橋梁 / 超高層住宅 / 海外事業 －

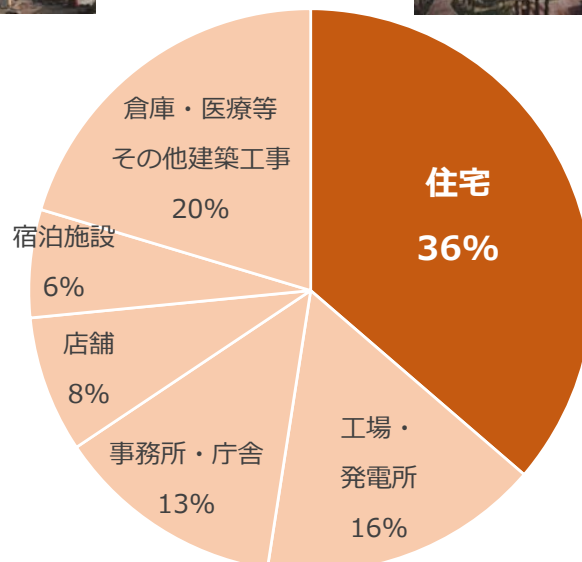
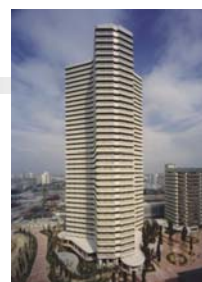
12

当社の主力事業

土木

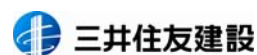


建築



過去3年の完成工事高比 (2016-2018)

13



橋梁

1959
歴史の始まり

世界に先駆けた
新しい構造

生産性向上
への取組

サステナブルな
社会へ

14

世界の技術を学ぶ



1959
歴史の始まり

世界に先駆けた
新しい構造

生産性向上
への取組

サステナブルな
社会へ

1959 嵐山橋
(神奈川県)

日本初の張出し施工



15

世界に先駆けた新しい構造



1959
歴史の始まり

世界に先駆けた
新しい構造

生産性向上
への取組

サステナブルな
社会へ



世界初のエクストラードスド橋

特徴：斜張橋と桁橋を複合
主塔が低く、圧迫感が少ない

1994 小田原ブルーウェイブリッジ

世界初のバタフライウェブ橋

特徴：ウェブが蝶型の薄型パネル
10%程度の軽量化

2013 寺迫ちょうちよ大橋



16

世界に先駆けた新しい構造



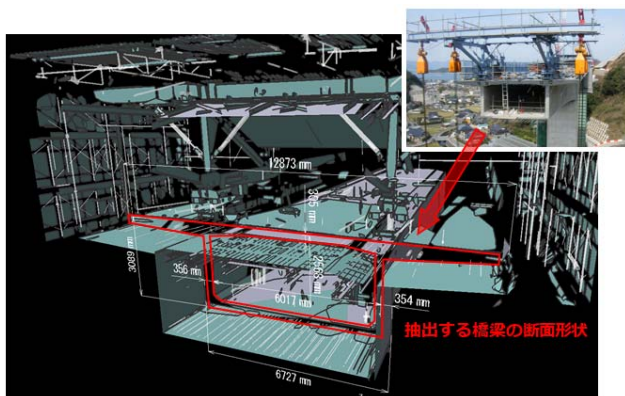
現場施工の省力化



ICTの活用

SMCスマートメジャー

- ・計測の作業時間を1/2に削減

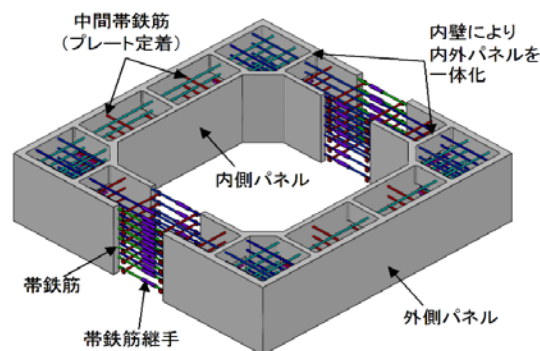


3Dレーザースキャナーで自動抽出される橋梁断面形状の一例

部材のプレキャスト化

SPER工法

- ・技能者生産性を45%向上
- ・大幅な工期の短縮

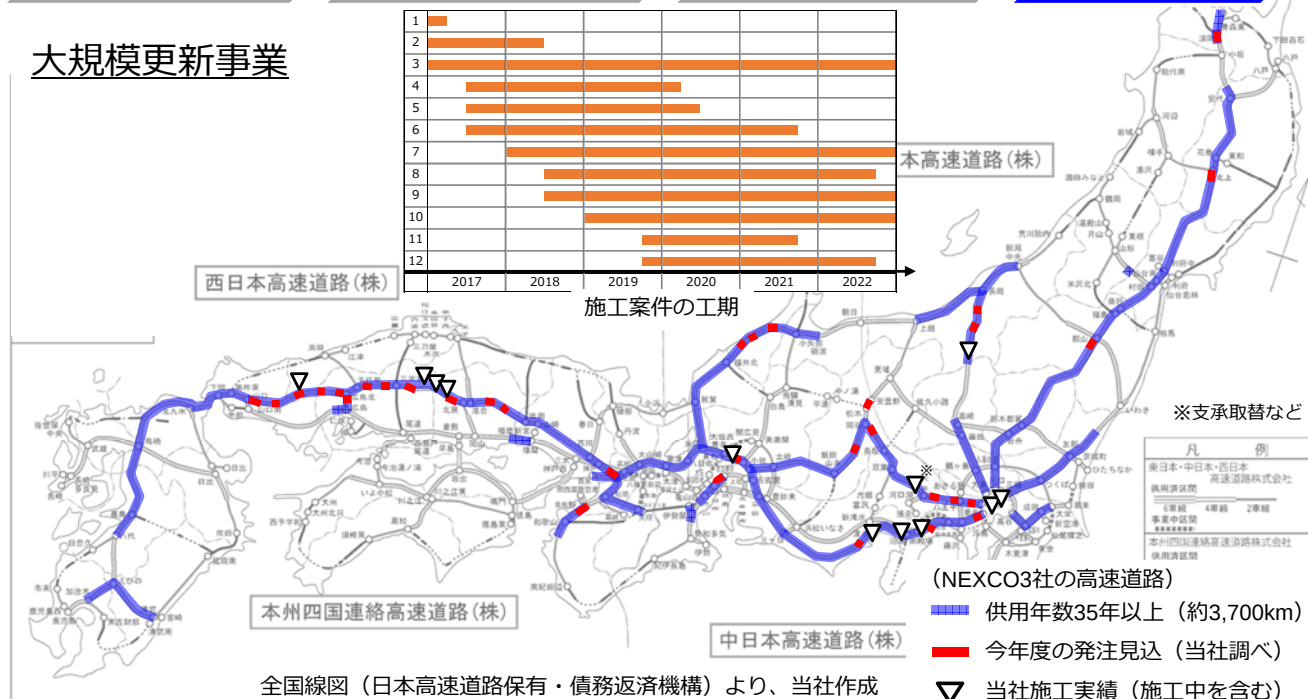


ハーフプレキャスト部材イメージ図

老朽化したインフラへの対応



大規模更新事業



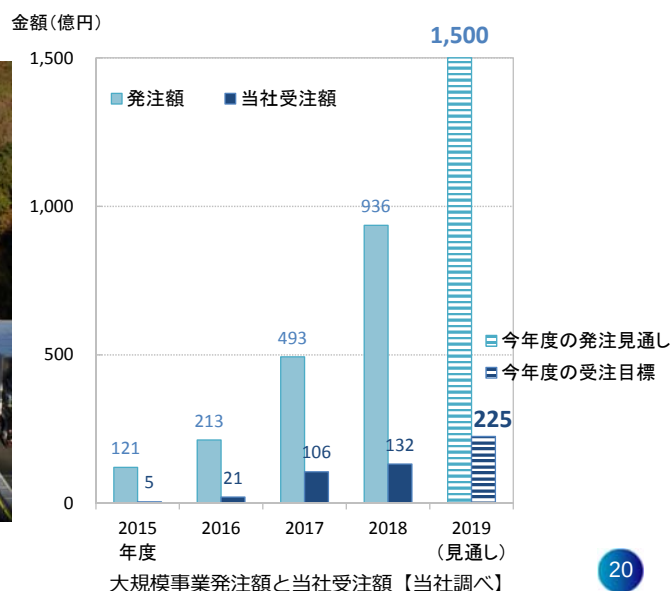
老朽化したインフラへの対応



大規模更新事業



東名高速道路裾野IC沼津IC間 下長窪川橋



橋梁の超高耐久化



1959
歴史の始まり

世界に先駆けた
新しい構造

生産性向上
への取組

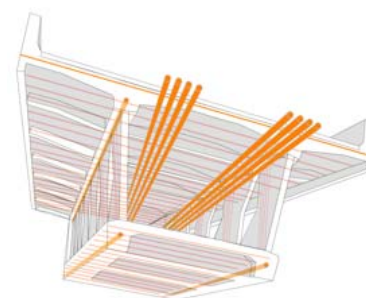
サステナブルな
社会へ

非鉄製橋梁（Dura-Bridge®）

2020年竣工予定 別荘谷橋（べっそだにばし）



超高耐久橋梁の完成イメージ図（提供：西日本高速道路㈱）



特徴：

- ・鉄筋やPC鋼材を用いず、腐食劣化を排除
- ・コンクリート片のはく落など第三者被害の防止
- ・耐久性の向上による維持管理費の削減

橋梁の超高耐久化



1959
歴史の始まり

世界に先駆けた
新しい構造

生産性向上
への取組

サステナブルな
社会へ

サスティンクリート®

特長：

- ・ひび割れのリスクがほぼゼロ
- ・CO₂排出量を大幅に削減し、環境負荷を低減。
- ・コンクリート充填作業の省力化で、施工時の生産性を向上



サスティンクリートを用いたPC橋梁（イメージ）



実証橋載荷実験の様子

超高層住宅



23

超高層住宅

超高層住宅のパイオニア



1979年
都内初20階超
サンシティD棟



1987年
日本初100m超
ベルパークシティG棟



1998年
日本初50階以上
トリニシアビルゲート1号棟



リバーシティ21

超高層住宅135棟
業界トップクラスの施工実績

24

超高層住宅のパイオニア



超高層住宅の
パイオニア

生産性向上
への取組

高層住宅の
新しい価値

サステナブルな
社会へ

地上64階、高さ約270mの超高層住宅



【イメージパース】虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業施設建築物等新築工事 西棟(B-1街区)

25

プレキャスト化の推進による生産性向上



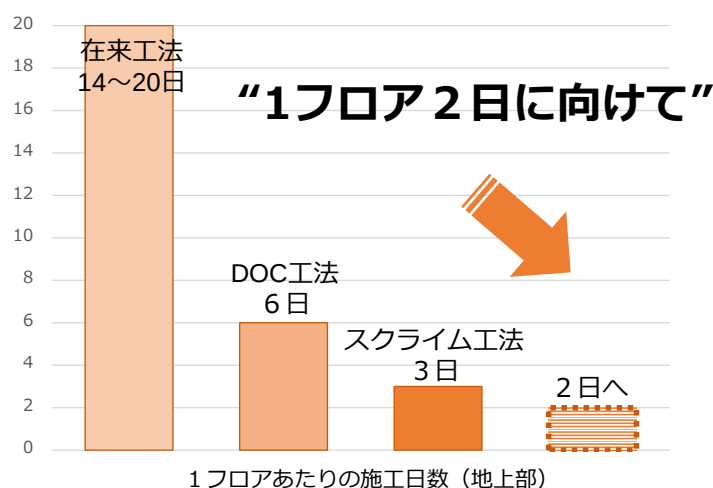
超高層住宅の
パイオニア

生産性向上
への取組

高層住宅の
新しい価値

サステナブルな
社会へ

- ・ 国内最速の施工スピード
～着工から引渡まで、より短期間で
- ・ 現場省力化とともに“高品質”を実現



スクライム工法による施工状況

26

プレキャスト化の推進による生産性向上



超高層住宅の
パイオニア

生産性向上
への取組

高層住宅の
新しい価値

サステナブルな
社会へ

プレキャスト部材の安定供給

各エリアに広がるPC工場



茨城工場でのプレキャスト部材製作の様子



プレキャスト化の推進による生産性向上



超高層住宅の
パイオニア

生産性向上
への取組

高層住宅の
新しい価値

サステナブルな
社会へ

- ・ プレキャスト部材の生産管理システム（PATRAC）の開発
- ・ 自動施工への取組



RFIDタグを用いた製品管理

マンションに新たな付加価値



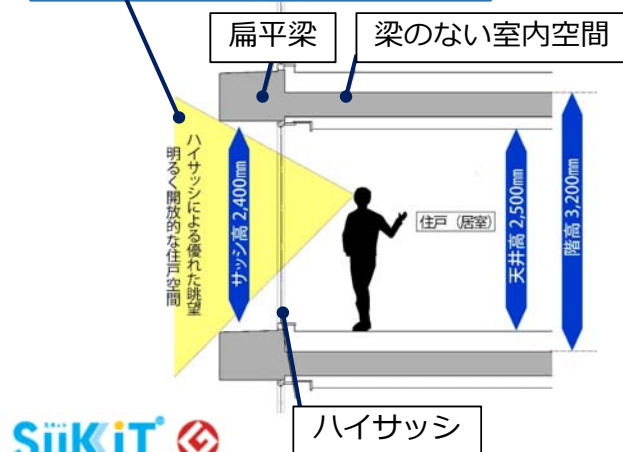
超高層住宅の
パイオニア

生産性向上
への取組

高層住宅の
新しい価値

サステナブルな
社会へ

階高を変えずに
ダイナミックな眺望を実現



SukkiT

○採用実績 50 件のSukkiTシリーズ
(うち免震構造のSulattoは14件)

○免震構造のSulatto タワーマンション



Brillia Tower 有明 MID CROSS 外観イメージ

29

住まいの安心を支える免震技術



超高層住宅の
パイオニア

生産性向上
への取組

高層住宅の
新しい価値

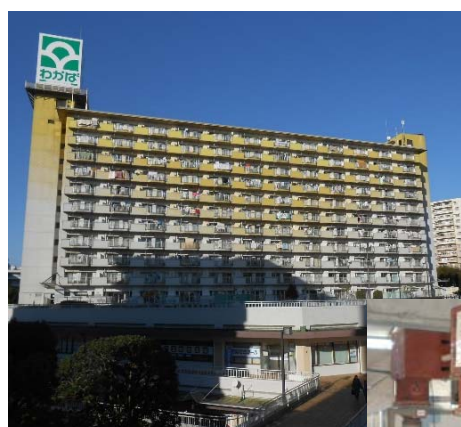
サステナブルな
社会へ

免震超高層住宅



超高層免震ツインタワー ドウ・トゥール

住まいながら行う、免震改修



若葉台第1共同住宅



免震装置の設置作業状況

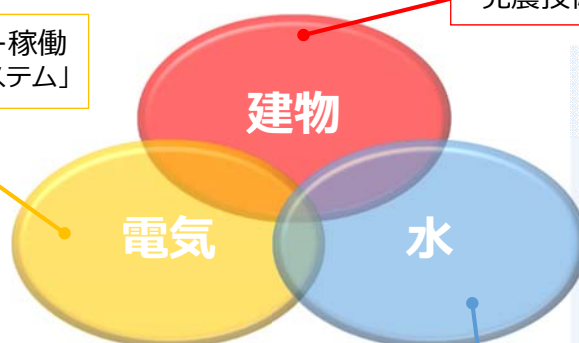
30

災害に強い住宅づくり



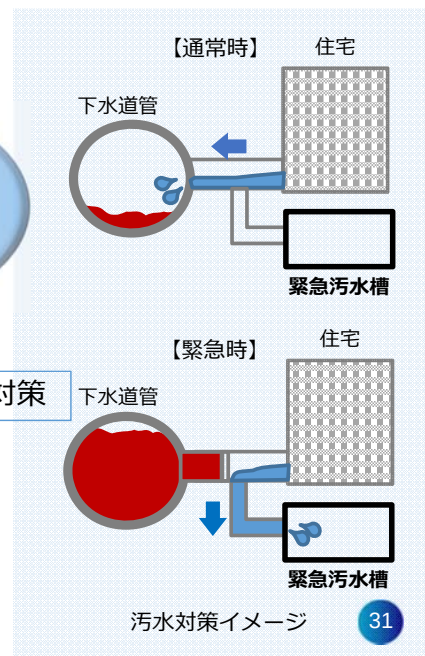
停電時のエレベーター稼働
「コネクティッドEVシステム」

免震技術等による地震対策



稼働実証が行われた超高層住宅(左)と電源供給する電気自動車(右)

災害後の污水対策



海外事業



当社の進出国



海外進出の
展開

海外事業の
強み

人材育成

サステナブルな
社会へ



スリランカ：国会議事堂



インド：日系ゼネコン50%程度のシェア
フィリピン：昨年度は50%程度にシェア向上



カンボジア：つばさ橋

進出年

1971 タイ
1976 インドネシア
1977 シンガポール
1979 スリランカ
1984 グアム
1989 インド
1994 ベトナム
1995 フィリピン
1998 バングラデシュ
2010 カンボジア
2013 ミャンマー
2014 マレーシア
2015 タンザニア
2017 台湾

33

海外事業の強み：インド



海外進出の
展開

海外事業の
強み

人材育成

サステナブルな
社会へ

これまでの歴史

1989 アンパラ石炭火力発電建設

1996 日系ゼネコン初のインド現地法人設立

現在

(ローカル企業と比較して)

- ・工期の遵守
- ・品質が高い

(他日系ゼネコンと比較して)

- ・コスト競争力がある
- ・官庁許認可取得支援を含めたサポート

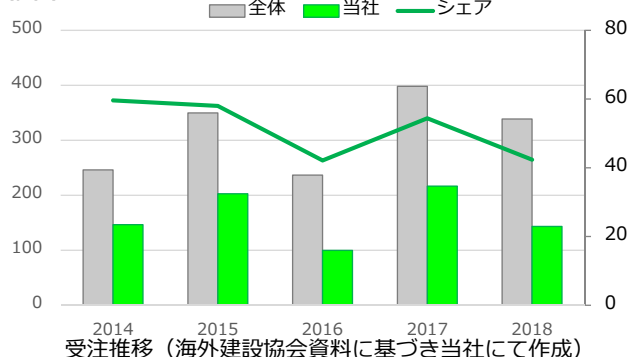
アンパラ石炭火力発電所



インド国内の事務所

受注金額
(億円)

シェア
(%)



34

グローバル人材の育成



コンセプト

グローバル人材の育成・確保

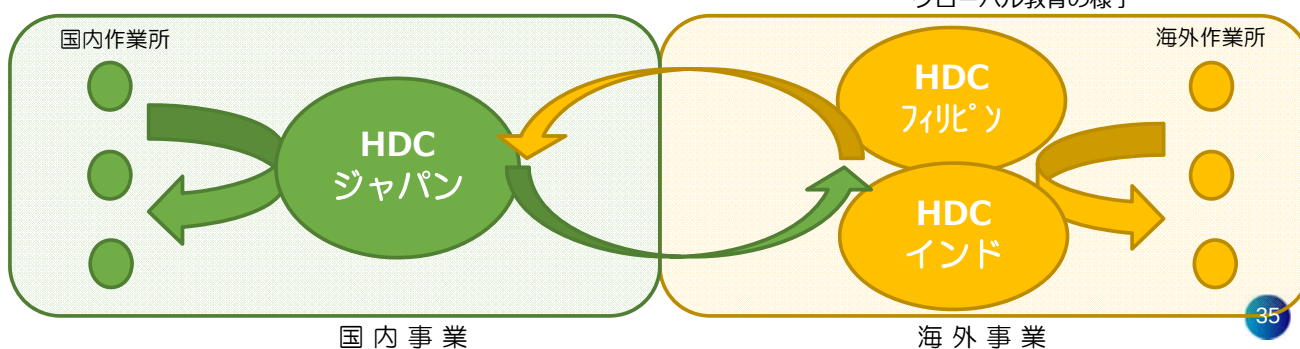
施策

HDC：人材開発センターにおける教育強化
(Human Resource Development Center)

現在3拠点（日本、フィリピン、インド）



グローバル教育の様子



国内事業

海外事業

35

サステナブルな社会へ



南米・ボリビア山岳農村地域

Bridges to Prosperity

- ・橋梁によって地域を繋ぎ
孤立に起因する貧困をなくす



完成した橋梁（上）と地元小学生との交流（下）

バイオトイレ

- ・開発途上国における劣悪なトイレ環境の
改善に取り組む

アフリカ・タンザニア

ムフガレ・フライオーバー

- ・同国初の立体交差点を建設
・慢性化する交通渋滞問題を解消



TICAD7資料に掲載のムフガレ・フライオーバー

36

はしも、
まちも、
ひとも。



お問い合わせ先
企画部

Tel. 03-4582-3016 Fax. 03-4582-3205

本資料に掲載しております計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、本資料の発表日現在における当社の戦略、目標、前提または仮定に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の計画、予測または見通しなどと異なる結果となる可能性があります。